

研究の成果



茶乗用型防除機を活用した液肥の施用と効果

農産園芸研究部門 茶業研究室 野田政之

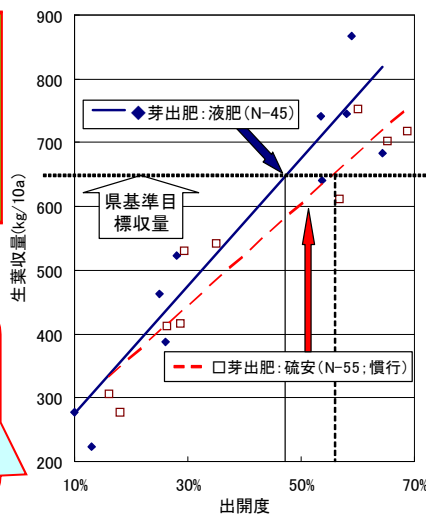
背景・ねらい

茶の減肥栽培が進む中、より肥効を高め、収量・品質を確保する上で、液肥の施用は有効な手段です。しかし、点滴灌水施設などは、新たな設備投資が必要となります。そこで、現地で導入が進んでいる乗用型防除機を利用し、一番茶の芽出し肥に有機液肥を用いて減肥下での有効性について試験を行いました。

結果

一番茶芽出し肥として有機液肥を施用すると、減肥下(年間窒素施用量45Kg/10a)であっても慣行(年間窒素施用量55Kg/10a:芽出し肥硫安施用)と比較して、若芽で目標終了に達し、品質も良好でした。また、液肥の施用には乗用型防除機を活用することで、効率的に根に近い部分に散布を行うことができました。このように、一番茶の芽出し肥に有機液肥を施用することで、施肥量を減らしながら、茶の収量・品質を維持・向上させることができました。

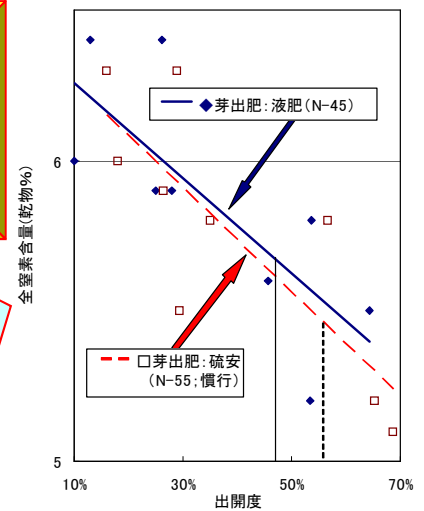
収量の維持



出開度

茶の新芽の生育度を示す指標。出開度が小さいほど芽が若い状態を示す。

品質の維持



全窒素含量

茶の品質を示す指標の一つ。全窒素含量が高いほど品質は優れる。

乗用型防除機による液肥の施用



茶樹株元に散布

成果の留意点

液肥は市販の有機液肥(N:P:K:Mg=10:5:5:1)を使用。10aあたり45Kg(窒素4.5Kg)を3,000ℓに希釈して散布しました。液肥は乗用型防除機の薬液タンクで調整し、自作した散布用アタッチメントに防除機の配管を接続して使用しました。